

平成25年白老町議会総務文教常任委員会会議録

平成25年 7月25日(木曜日)

開 会 午前10時00分

閉 会 午後 0時34分

○会議に付した事件

所管事務調査

1. 白老町小学校適正配置計画(案)について
-

○出席委員(5名)

委員長 小西秀延君

副委員長 山田和子君

委員 吉田和子君

委員 齋藤征信君

委員 前田博之君

議長 山本浩平君

○欠席委員(2名)

委員 坂下利明君

委員 本間広朗君

○説明のため出席した者の職氏名(なし)

○職務のため出席した事務局職員

事務局 長 岡村幸男君

主 査 本間弘樹君

◎開会の宣告

○委員長（小西秀延君） ただいまより総務文教常任委員会を開会いたします。

（午前10時00分）

○委員長（小西秀延君） まず初めに、教育委員会のほうから白老町小学校適正配置計画（案）について、こちらは全員協議会でご説明をいただいておりますが、特にまた今回説明するようなところがあればお願いしたいと思います。

五十嵐教育課長。

○教育課長（五十嵐省蔵君） 全員協議会でご説明した以降については、特に説明ありません。以上です。

○委員長（小西秀延君） それでは、特に追加して説明することはないということでございますので、委員からのご質問を受けたいと思います。

前田委員。

○委員（前田博之君） この1の適正配置（案）についての説明を省略し、質疑ということ、これは理解しましたけれども、2の各小学校地域・保護者説明会の状況について先に説明してもらって、合わせて質問したいのです。そうしないと、ここに係る部分について各学校で説明して、期日まで何か言っている話もありますので、その辺も合わせて質疑したい部分がありますので、できれば2も先に合わせて説明を受けてから質問したいと思うのですけれども、いかがでしょうか。

○委員長（小西秀延君） ただいま前田委員から、1、2を合わせて質問のご希望がありました。それでは、1、2を合わせて説明をいただいた後、質問をお受けするやり方で進めたいと思いますがよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小西秀延君） それでは、2番になります。各小学校地域・保護者説明会の状況についてご説明お願いいたします。

五十嵐教育課長。

○教育課長（五十嵐省蔵君） 地域説明会の状況について私のほうから説明させていただきます。お手元に資料がいていると思いますが、6月10日から6月17日まで6日間ということで地域の小学校区単位で説明会を行っております。まず①、社台小学校区については、6月10日に社台小学校で行っております。保護者、町内会、教諭等を含めて31名の出席がありました。主な質疑・意見等ということで、学校区ごとに4項目程度上げております。社台につきましては、1つ目といたしまして、スクールバスの運行方法についての質問が何点か出ておりました。また、複式学級のメリット、デメリットということで、特に社台小学校につきましては複式学級に入っておりますので、その質問も出ておりました。また、少人数学級、規模は小規模のほうがいいという意見も多数出ておりました。あと、統合は財政的な問題で統合するのかということと、白老小、緑丘小学校の改修の関係の質問も出ておりました。

②の白老小学校区につきましては、6月11日に説明会を行いまして、保護者、町内会等で21名の方が出席いたしました。主な質疑・意見等につきましては、1つ目として、スクールバスの運行方法と運行できるかどうかを含めた運行と、通学路の問題、それから、校舎改修、緑丘小学校の耐震化等の内容についても出ておりました。また3つ目といたしまして、校名、校歌の考え方ということで、緑丘小学校の校舎を利用した白老小学校、白老小学校の校歌を使うという、その考え方の質問も出ておりました。また、4つ目といたしましては、特別支援学級、ことばの教室の設置についての質問も出ておりました。

③の緑丘小学校区ですが、6月12日に説明会を行い、保護者、町内会等で28名の出席がありました。主な質疑・意見等については、1つ目としていたしまして、通学路について、それから、2つ目といたしましては、先ほど白老小でも説明しましたとおり、校名、校歌の考え方について、それから、3つ目といたしまして、校舎改修の内容、時期等についての質問も出ておりました。また、4番目といたしましては、いじめスクールカウンセラー等についての質問も出ておりました。

④の萩野小学校区については、6月17日に説明会を行う予定でありましたが、当日出席者は誰もおりませんでした。

⑤の竹浦小学校区におきましては、6月14日に行いまして、保護者、町内会等10名の出席がありまして、主な質疑・意見等では、竹浦小学校の校舎の耐震化の時期という質問、それから、2つ目といたしまして、白翔中学校の統合後についてという質問と、3つ目といたしましては、竹浦中学校の跡地利用のこと、それから、4つ目といたしましては、竹浦の統合時期と計画案についてという質問が出ておりました。

裏のページにいきまして、⑥の虎杖小学校区ですが、6月13日に説明会を行いまして、保護者、町内会、教員等で8名の出席、主な質疑・意見等については、計画案の時期がなぜ今なのかということと、早期に統合してほしいという意見も出ておりました。また、3つ目といたしましては、統合に向けて子供たちの交流はどう考えているかということと、4番目といたしまして、統合の時期、場所、これは萩野小学校から虎杖小学校のほうの統合の時期、場所という質問も出ておりました。

以上、簡単ですが説明を終わらせていただきます。

○委員長（小西秀延君） それでは、適正配置計画（案）、各小学校地域保護者説明会の状況をご説明いただきました。ご質問を受けます。

前田委員。

○委員（前田博之君） 適正配置については平成14年までもありましたので、その分も十分踏まえていますので、内容についてどうこうは別にして、それから先のお話で、まずは緑丘小学校、これは新聞報道等、私のところはちょっと出ていなかったものですから、このときに新聞報道でもありましたし、参加した人から聞いたのですけれども、27年までに白老小学校と統合すると、だから地域の皆さんもそういう、言葉はどうかわかりませんが、意識というか、そこまで決めてくださいと、そういうことを言ったということは、これは間違いありませんか。それをまず確認してからまた次の質問に入りたいと思います。

○委員長（小西秀延君） 五十嵐教育課長。

○教育課長（五十嵐省蔵君） 決めてくださいと、言葉はちょっと違うかもしれませんが、一応27年4月統合を目指しているということで、その時期を含めて全員協議会でも説明しましたが、おおむね教育委員会の考え方としては、後でスケジュールにも出てきますが、予算等を含めて11月か12月くらいまでに応諾書をいただいて進めたいという説明を行いました。

以上です。

○委員長（小西秀延君） 前田委員。

○委員（前田博之君） わかりました。それで、1の適正配置計画（案）に入りますけれども、6ページの（5）、統合に向けての課題で、社台地区はまた皆さんから後で意見出ると思いますから私は言いませんけれども、鉄南地区です。これに対する、それはもう27年に統合するということであれば、当然、校舎をどうして改築出てくると思います。どちらからかわかりませんが。それとか、ここに書いているいろいろなインフラ整備に対する投資額が出てこなくてはいけないと思うのです。それを実際にどれだけの額として積算されているかまずお聞きします。

それと、今の財政で先般も特別委員会で説明ありました現状維持型からすると、26年、27年度で財政再生団体になってしまうということになれば、これはもし政策的に優先的に入れるのであれば、財源的なことと、当然それからいけば、これを優先的にやるとすれば、ほかの事業をやめてまでやらなければいけないと思いますけれども、その辺の財政、まずインフラ整備に係る項目と額、それと、今言った財政計画上どのような処置をされて、町当局とどのようなすり合わせをされているのか。その辺だけ伺ってみます。

○委員長（小西秀延君） 五十嵐教育課長。

○教育課長（五十嵐省蔵君） 統合に伴う改修関係というご質問ですが、6月の議会にも提案しましたが、地方の元気臨時交付金で緑丘小学校の耐震改修の実施設計というのを outsourc しております。700万円ほど。その中で改修の実施設計をかけております。改修の額につきましては、今時点でうちのほうで試算しておりますのは約2億7,000万円から3億円の間だろうと。当初の補助大型事業という中では2億7,200万円ほどを見込んでおります。そちらにつきましては、試算であります。国庫支出金が4,585万9,000円、地方債が2億360万円、一般財源で2,275万円、合計2億7,220万9,000円ということで想定しております。これは町のほうの補助大型事業等にも26年度事業調査ということで出しております。ただ、説明会、それから、全員協議会のときにも出たと思いますが、今のうちの財政のタイミングでいくと、この2,200万円というのは、教育振興基金整備基金を使う予定もしておりますが、ただ、食育・防災センターのほうもありますので、応諾書が例えば11月、12月ころに出て、予算にのるのであれば来年度の補正予算、毎年の補正予算等にも入ると一般財源がほぼなくなりますので、そういうタイミングも考えているということがあります。

それともう1点、説明会の中で役場前の歩道橋と駅横の跨線橋の改修の話もしておりますが、こちらについては今あくまでもこれは概算ですが、役場前の歩道橋は3,240万円ほど、これは例えば鋼材の塗装とか、さび落としとか、あと排水とか、あと床面のプレートの補修等の補修で3,200万円ほどです。これにつきましては、財源の内訳というのはあくまでも概算というこ

とで建設課のほうからいただいております。

また、駅横の跨線橋につきましては1,770万円ということで、これも鋼材部のさびどめとか、塗装とか、あと階段のステップとかということになります。ただ、説明会の中でも説明しておりますが、JRをまたいでいる歩道橋、跨線橋については、JR協議というのが事業を始める前に1年ほどかかります。それから、事業は負担金工事というJRの事業になりますので、町で負担を出してやるのは最低でも跨線橋、歩道橋を改修するには2年はかかるだろうと言われております。実際、当然まだ協議等に入っておりませんが、工事費関係でいきますと以上のようになっております。

○委員長（小西秀延君） 前田委員。

○委員（前田博之君） 経常的な維持費の増はありませんか。統合したことによってかかる経費、白老小の部分の学校管理費は減ると思うけれども、それ以外に統合することによってかかる学校教育の振興部分というかかる経費、幾ら減って幾らふえるという部分も出てくると思います。当然1地区減れば交付税も大きく減りますから。その辺の部分の算定はされているのかどうか。

○委員長（小西秀延君） 五十嵐教育課長。

○教育課長（五十嵐省蔵君） まだ細かい具体的な算定はしておりませんが、これはあくまでも本当に大まかですが、大体社台、白老小が緑丘小に統合になった場合は、大体管理費が1,500、600万円くらい落ちるだろうと、総体です。ただ、社台の場合についてはスクールバスを運行しますので、白翔中学校の例でいきますと大体800万円ほどかかるのかと。1台運行でということになっております。

それと、あと交付税については、白翔中学校のときに大体1校で500万円ほど落ちていくというお話をされておりましたので、大体それくらい落ちていく可能性があるということですが、ただあくまでもこれは本当に今の大きな試算ですので、まだ細かい試算はしておりません。

以上です。

○委員長（小西秀延君） 前田委員。

○委員（前田博之君） 最後にしますけど、さきの平成14年ごろ統廃合でやったときに、私も担当したのですが、各学校で説明会をしたときに、けんけんごうごうすごく我々もかなり責められたというような当時の状況があったのです。やはり緑丘と白老と、もとは同じだったのだけど、かなり文化が違うような言い方までされてしまって、私が言えばPTAの人やほかの人や別な役員の人から前田さんは余り議論しないほうがいいのではないかとされたのですけれども、それぐらいの過程だったのですけれども、この今説明会を聞くとかなりもう前向きな姿勢になっているようですけれども、そのように解釈していいのでしょうか。

○委員長（小西秀延君） 古俣教育長。

○教育長（古俣博之君） 説明会そのものの印象としては、出た声からいけば、統合そのものに反対だとか賛成だとかというよりは、条件的な部分での、先ほど課長のほうから何点が挙げましたけれども、要するに通学方法をどうするかとか、通学路の整備はどうなのだ、安全性を保つためにはどうなのだ、それから校名、校歌の件についても若干出ましたけれども、そう

いう条件的な部分での声が非常に多かったと。統合そのものについての、こういうことだから反対しますとか、賛成ですというふうな、そういう声は、大きく反対の声はなかったように私自身は捉えております。

以上です。

○委員長（小西秀延君） 斎藤委員。

○委員（斎藤征信君） 斎藤です。初めに確認しておきたいのですが、今の話もあったのですが、ここで統合に対してどういうふうにと考えた方がいいのかということをお話してもいいのか、それはもう統合は決まったものとして考えなければならないのか。だから条件をどういうふうにするかというようなことなのか、それを全てひっくるめて話をしているのか。今のお話を聞きますと、以前統合のお話が出たときに、白老小、緑丘小からかなりの意見があったはずなのです。それが、こうやって説明をしたときに消えてしまうということは、その間に何か変化があったのかと、社会的な条件も変わったのかという気もするのだけど、その辺基本的に、今その根本から話をしているのか。そのあたりどんなふうにと考えた方がいいのでしょうか。

○委員長（小西秀延君） 今回の所管事務調査においては、小学校の適正配置計画（案）が出されております。その中に、今回の社台小学校、緑丘小、白老小、3校の名前が出て、統合の案が出てきておりますので、それについては広く議論していただいて構わないと思います。

また、これがありきで決まっているのかというご質問でございましたが、これはあくまでも案でございますので、それをこの所管事務調査で調査していただいて、今後議会のほうに正式なものが出てくると、そこで議決を得るというふうにと考えております。

斎藤委員。

○委員（斎藤征信君） わかりました。それでは伺います。まず社台から3校が統合した後、学級数だとか何かの展望というのは今後どんなふうになっていくのか。そのあたりどういうふうにと押さえているのか。まずそこだけ伺います。

○委員長（小西秀延君） 五十嵐教育課長。

○教育課長（五十嵐省蔵君） 学級数ですが、お手元の計画案の4ページに児童数の将来推計がありますが、これを見ますと、25年度でいきますと白老、緑丘、社台合わせて390名ほどですか、それが33年にいきますと約310人になります。大体60人から、33年でも1学年50人程度となりますので、2学級は当分10年、15年は維持されると思います。学級数でいきますと各学年2学級です。

○委員長（小西秀延君） 斎藤委員。

○委員（斎藤征信君） 大体子供の数を足して6学年で割ると60何人になります。だから2学級ぐらいは確保できると。ところが、ただ今の学級数を足した分だけの学級数ができるわけではないわけです。それで、支援学級があります。すごく最近支援学級数が多いわけですが、これらも合わせるとどうということになりますか。これは、支援学級全部合わせると11になりますけれども、まさかこれは全部合わせて11学級ができるわけではない。このあたりはどんなふうに見ていますか。

○委員長（小西秀延君） 五十嵐教育課長。

○教育課長（五十嵐省蔵君） 2ページに現在の児童数の推移というところがありますが、ここで白老小学校、緑丘、社台小学校の特別支援学級の学級数が出ております。若干支援学級の生徒はふえてきておりますが、一番多い緑丘小学校で15人です。学級数の推移を見ていただきますと、社台が2学級、白老が5学級、それから緑丘が4学級ということになっております。これを合わせて統合しても、これを全部合わせた数になるわけではありません。というのは、1学級の定数が、例えば1人で1学級という支援学級もたくさんありますので、大体6学級ぐらいになると想定されます。改修の中でも6学級、運用によっては7学級ぐらいまで取れるような改修は考えております。ですから、今より多い学級、学校より1学級程度ふえる6学級程度という見込みでおります。

以上です。

○委員長（小西秀延君） 斎藤委員。

○委員（斎藤征信君） そこで、基本的なことを伺いますけれども、学校適正のあり方についていろいろと論理的に書いてあるわけですがけれども、効果的にクラスがえができるようにという考え方。それから、そのために最低2学級がお互いの子供たちの交流やクラスがえができる範囲のことで考えると、こういう考え方に基づいています。複式のメリット、デメリットがいろいろと書いてあるのですけれども、これは今の社会情勢にあった考え方なのか、これは以前はこういうことをよく言われた、大規模な学校があって、小さな学校が幾つもあった、その複式の弊害というのはどうなのかということはいろいろと言われてきたことだけれども、今どこの学校を見ても全部複式に近づいてきているわけです。そして、さらにそれがふえる見通しがなくてどんどん減ってくるわけです。そうすると、今白老小と緑丘小が合わさったから何とかなると、こうなっているけれども、また何年かするとそれがまた、いずれ複式の心配をしていかなければならなくなっていくわけです。この白老小学校もあつという間に複式の心配をしなければならなくなっているわけです。こういう時期がずっとくるわけです。そうすると、単式で2学級があったほうが、教育的に効果がある。これは一般的にはわかるのだけれども、その論理というのはいつまでも通していいのか。複式があって、そういう少人数になったときに、少人数をどう生かしていくかという論理がなかったら、子供の数に合わせて学校をつくっていったら、どんどん変な方向に向かってしまうのではないかと。こういう心配をするのです。だから、新しい教育論理というものを考えてやらなければならないのではないかと。実態に合わせて、合わせた学級数だけを考えるというのはおかしいのではないかと気がするのです。

もう1点だけ聞いておきたいのは、全町的な課題と位置づけるとあるのです。全町的な課題と位置づけたこの統合、適正配置というものの考え方は、どこの点を捉えてこの全町的な課題と位置づけると言っているのか。そのところをはっきりさせてください。

○委員長（小西秀延君） 古俣教育長。

○教育長（古俣博之君） 規模の問題というのは、議員もおわかりのように学校教育法の施行規則の中では、適正規模として小学校は12学級から18学級が適正規模だというふうなことで、今の段階では捉えております。それは、やはり今の社会状況のことで、少子化というふうな部分は確かにありますけれども、子供が心豊かにたくましく育っていくための状況としては、や

はり集団の中でどれだけ人間関係をしっかりと構築する能力をつけていくかというふうなあたりは、非常にこれからグローバル化の社会状況の中では大事なことになってくるだろうと思います。そういうふうなことからも、今うちのまちの場合は12学級ということは、最低でもそういうふうな学校規模というのはなかなかきれいな状況だけれども、最低限クラスがえがでできる状況は維持していきたいというふうなことでの捉え方をしております。

それから、全町的な課題というふうに捉えたことは、以前のこの適正配置については各地域1校というふうなことでの押さえがされていた時期があります。そのところから今度は全体的に、それは今までの議会の中でもそういうふうなお話があったと思いますけれども、全町的にこの適正配置計画については考えなければならない、そういうことで今回も全町的に、ただこの3小学校の統合のみならず、今後も含めて、萩野、竹浦、虎杖の状況も今後考えていかなければならない。その条件としては、複式学級の複数化を解消していくのを一つの条件として捉えていきたいと。そういうふうなこと全町的な課題というふうな言葉で挙げております。

○委員長（小西秀延君） 齋藤委員。

○委員（齋藤征信君） よくわかるのですが、まず適正規模の問題ですが、これは確かに国の一つの考え方として12から18あればいいと。だけれども、今はどんどんなくなっていった、苦小牧の中心にある弥生中学校でさえなくなってしまいう時期なのです。もうどんどん減っているという中で、この適正基準というものがもうそぐわないのではないかということです。それを主張していると、ではほかの学級、白老でいうと虎杖だとか竹浦、萩野が将来的に複式になっていくのはもう目に見えているわけですから、全部なくしていくという方向で学校は町内に1校か2校にするのだという、そういうことで考えるのかということを知りたいわけです。それが前提になっているのだとすれば、まちづくりにとっても大変なことです。今小さくなくても、小さい学校ぎりぎり運営していく、小さい学校には小さい学校のよさがあり、前にも言ったことがあるのだけれども、小規模校にこそ教育の原点があると昔から言われているのだけれども、だけれども確かにデメリットもあるのだけれど、小さな学校をどうやって運営していくのか、小さい学校同士の交流を深めながらスポーツや何かもやっていく。そういう中で小さい学校をいかに残していくかということも考えていかなければ、本当に将来的には白老に小学校が1校になってしまうというような、そういう運命にしかならないわけです。このところで、もっと小さい学校も残していくのだという方向も検討されなかったのかということが一つ。

それから、全町の課題と言ったのも、これは地域に1校残すのはいいことだと思ったのです。中学校はいざ知らず、小学校が地域からなくなったときに、文化センターがなくなる、だからその地域が衰退する。そういうことは昔から言われているのです。だから、地域に1校ずつ残すと言ったことはいいことだというふうに捉えていたのだけれども、それがかなわなくなりました。かなわなかったのだけれども、最低限地域に小さいけれども地域に残していくという方向づけというもの。虎杖浜に1校、竹浦に1校、萩野に1校と、そういう無茶は言わないけれども、本当に竹浦、虎杖で1校残していくような、そういう考え方ということを進めていかないと。白老の場合、白老でいうと鉄南、鉄北で、これらの成り立ちも何もみんな違うわけで、地域として両方に学校をぎりぎりまで残していくのだという、こういう検討というのはされな

かったのか。以前に検討委員会が地域に1校だから緑丘も白老も1校にすべきだと、それがもうほとんど決まったような形で一緒に統合しなければならないという、そういうものの考え方ではなくて、今のような状況だから鉄南、鉄北両方に学校を残していくのだという、そういうような考え方ができなかったのか。そのあたりあればお願いしたいと思います。

○委員長（小西秀延君） 古侯教育長。

○教育長（古侯博之君） その学校規模の捉え方というのは、今社会状況全体を考えたときに、本町ばかりではなく少子化はもうどんどん進んできております。そういう中で、国の動向も少子化にどういふふうに対応していくか、学校規模をどういふふうに対応していくかというところは、今大きな問題に、課題になってきております。ですから、今1学級規模が1年生のみ35人になっているのですけれども、今財政的な問題もあって一たんとまっていますけれども、これはやはり今後の状況としては、その40人学級からもっと少ない35、30というふうな学級規模にしていかなければならない状況になってくるかと思っています。そういう国の状況を見ながら、本町においては、だったらどうするべきかというふうなことについては、いろいろな観点から考えました。前の、これまでの計画案についていろいろありましたから、その部分も含めて考えていった中で、やはり今議員がおっしゃるような子供たちの教育条件をどういふふうな環境としてつくるべきかというふうなところがやはり一番大きな問題であろうと。そういうふうなところで、やはり今こういう社会状況の中では、子供たちが多様な個性とのかかわりをつくっていくことがやはり必要だと、そういうふうな結論の中で、今現時点ではこのような計画案として出させていただいております。ですから、十分小学校の規模の問題、小さいは小さいのメリットもあるし、またデメリットもあるということも十分押さえながらの案として出させていただいております。

○委員長（小西秀延君） 吉田委員。

○委員（吉田和子君） 今斉藤委員がおっしゃっていましたが、この小学校の統廃合というのは、私たち単純に今まで議会でも質問してきたのは、白老小と緑丘小の統合をいつするのかという議論をずっとしてきました。というのは、奥底には各地域に小学校各1校というのは基本的な考えとして持っていましたので、当然以前からのいろんな適正配置をずっとやっていました。14年には答申が出されて、そういった形の中でやはり考え以外のことというのは、社台小学校と一緒に入ることになったということで、それは今その複式学級でデメリット、メリットもあるけれどもデメリットはかなり大きいものがあるということと、そういったことを理由に3校一緒にという案が今出されています。そういったことでは、今後教育委員会として、もちろん先ほどもおっしゃったように竹浦、萩野、虎杖浜の問題も出てきますので、中学校は早くから白老町は2校という話をしていました。将来的に今まではずっと基本的な考えとして各地域に1校という小学校の考え方は、今一つ崩れました。向こうのほうは半分残っていますので、では、将来的に小学校もそういう形になるというふうには考えられているのかということが1点。

それからもう1点は、複式学級の、これからなっていく可能性がどんどん出てくる中で、デメリット、メリット、少人数学校のメリットもたくさんあると私は捉えています。ただ、デメ

リットの中で一番子供たちの成長にとって大きな課題があるということだと思っております。先生が接することのできない時間帯があるとか、切磋琢磨する場がないとかということで、そういったデメリットのことは上げられていますけれども、そのことをずっと長年、社台小学校はもう何年かそれをやっています。その中で社台小学校の子供たちの、やはり中学校へ入ってきたときの違いというのは、教育委員会とか、それから先生方から見て本当にあるか。その辺をどのように考えているか、まずその点を伺いたいと思います。

○委員長（小西秀延君） 古侯教育長。

○教育長（古侯博之君） 将来的な見通しというところで、どの程度のところまで捉えるかというふうなこともあるのですけれども、先ほど斎藤委員にもお話ししたように、今後は国の状況がどういうふうに移るのか、学級数の問題も含めて移るかによっても多分違ってくのではないかというふうに思っております。ただ、子供の数的なことから言えば、先ほど言ったような適正規模、法的な部分も含めて、それから、今子供たちに育てなければならない力の部分から、ことから考えていけば、より集団性の高い規模への移行は十分考えていかなければならないことだろうと思っております。ただ、現時点で町内2校がいいだとか、3校だとか、そういうふうな数的なことは、今はまだ結論としては出せません。

あと、社台小学校の子供たちが白老中学校に行った中での状況というのは、学校としてもどういうようなその子供の発達に対しての影響があるかということについて、客観的なデータとしてはまだ捉えて、私どもが捉えてはおりませんが、私が現場にいたときの経験、それから、今管理職から聞く中では、やはり集団になじむ時間的な部分というのは、非常にやはり長い期間を要する部分があるように捉えております。そのことがどういうふうにして子供たちの発達に具体的に影響しているのかというふうなことは、社台小学校の子供だけで言えば、特に問題があるとか、ないとかというふうなことは言えません。ただ、全般的に教育関係者の中での押さえは、学力向上も含めて、それから人間関係づくりにおいても、やはり集団の中における多様性の中で育った子供と、小さな集団の中で育った子供の差は十分あるだろうと。そういうことを言われておることは事実です。

○委員長（小西秀延君） 吉田委員。

○委員（吉田和子君） 将来的なことですから、今から2校にしましたということになるとまたいろんな面で問題が出てくると思っておりますけれども、将来的な子供の数を見ていくと、27年あたりからもう複式に、竹浦とか虎杖浜はなってくる可能性が、虎杖浜は26年に5学級とか4学級というふうになってきますので、やはり将来的なことを見通して、今回社台という地域をそういったことで捉えてやっていったということであれば、その基本的な考えをきちんとそういうふうに出しているわけですから、私はやはり今回急遽社台が出たような感覚がして、社台の人たちにとってみたら、今までずっと長年複式でやっていたのに急に複式がだめとは言っていないけれども、問題があるということと言われて、白老と一緒にありますと言われたときの子供たちの受けるものだとか、そういったことを考えると、やはりもうちょっと早くにきちんとしたそういう体制なることは言うておくべきだというふうに思ったのです。ということは、竹浦、虎杖浜も見えているわけですから、そういったことを基本に置いてやったのであれ

ば、やはり次の段階としてきちんといつごろまでにはこちらのほうもこういう形でやりますということ、教育委員会の考えとして、それはまたこれから話し合っていくことになると思いますけれども、やはり考えとして私はきちんと持つべきだというふうに思います。基本的な考えが出てそれにまたなっていくわけですから。その学校はもう全部です。ですから、社台だけが急になったわけではないですし、ずっと前からそうだったわけですから、それを否定してしまうようなことがあったということは、これは絶対的に残っていくと思うのです。ですから、社台だけがデメリットがあったからすぐやったけど、では虎杖浜、竹浦はそのまま置いておくのと。では、デメリットがあったということは違うのということに反対になってくるのではないかとそういうふうに思いますので、そういった子供の成長に合わせてどうなのかということの基本に置いているわけですから、そういったことはきちんと持つべきだというふうに思うのですが、その辺の考えをもう1回伺いたいと思います。

それから、やはり複式の問題点があるということで、もう1点私はすごく気になっているのは、支援学級の件ですが、社台にもいらっしゃいます。スクールバスということも考えていくと、その支援学級の子供たちがどういう状況かということも全然わかっていません。もしかしたら、親がつき添いをしなければならない子供もいるのかもしれない。これからまたそういう子供も出てくる可能性もあります。ですから、そういった配慮がきちんとできるようなクラスがえの、今度一緒になってきて多くなるわけですから、この支援学級の人数のあり方だとか、その重度差というのか、保育所は何人に対して先生は何人と決まっていますけれども、支援学級もその子の重度だとか、それから何人か一緒に共同でできるとかという、そういった組分けをしているのか。私その辺ちょっと詳しくわかっていないものですから、そういった面での6学級から7学級ということで、今までのクラスよりも減る、各学校によっては一緒になったほうが減ります。だから、そういった部分での問題点をきちんと把握しながら、しっかりとしたその基本的なことは守りながら、クラスが本当に何クラス必要なのかということは検討していただきたいというふうに思います。

それともう1点、これはもう大分前のことなのでかなり違ってきたのかと思うのですが、平成18年5月に、小学校の適正配置になったときに、これはまだ社台が入る以前の緑丘小学校の改修、児童クラブも増設するということが総事業費が、これは白老小学校の解体も含めての説明だったのですが、5億3,000万円かかるようになっていたのです。そういう計算だったのです。今回伺うと4億2,000万円、白老小学校の解体が入っているのかということと、さっきの2億7,000万円、すごく減ったのですが、これはどうして減ったのか。どうして減ったのかとはおかしいけれど、社台も入ってくるようになって、校舎的には使う校舎も多くなると思うのですが、1クラスぐらいにしかならないですか、でもそういう面では、このときどうして高かったのかとちょっと思って、これは建てかえのことも含めているのですか。その辺、工事費の違いと解体も含めたかと、それから、これから統廃合になったことにかかる経費というのは話がありましたけれども、財政的な問題はこの適正配置には入れないのだということで説明、でも懇談会では出たと言っていましたけれども、そういった説明はどのようにされたのか。その辺を伺いたいと思います。

○委員長（小西秀延君） 古侯教育長。

○教育長（古侯博之君） 将来的な今後の見通しについては、計画案にもありますように、今回出された計画案につきましては、全町的な課題として全体で小学校の適正配置は見ますと、それも条件の一つとしては複式学級を含めた子供たちの数の問題を一つ大きく取り上げて進めていきたいということでは、今後それに足場を持った進め方はしていきたいと思っています。

それから、支援学級の件ですけれども、今法的には5種の障がい種があるのです。知的、情緒だとかというふうなことを含めて5種あるのですけれども、要するに1学級規模を8人で教員1人というふうな配置ですけれども、学級が要するに3学級できれば教員が1人ふえる状況で、そのことからいけば先ほど見通しとしては6学級ぐらいが支援学級としてできるだろうと。そして、障がい種も5種類全部というふうなことはないかと思うのですけれども、2つから4つぐらいの障がい種になってくると教員配置はそこでプラスアルファはできるはずです。それと、全部の小学校、中学校にはまだ入れきれていないのですけれども、支援員を今配置しておりますので、そういうふうなことから障がいを持っている子供さんたちの支援学級の対応はもう進めていきたいと思っております。

○委員長（小西秀延君） 五十嵐教育課長。

○教育課長（五十嵐省蔵君） 工事費の話が出ておりましたが、申しわけありませんが以前の資料を持って来ていないものですから内訳がわからないのですが、先ほど言った2億7,000幾らというのは純粹に今の緑丘小学校を改修する工事ということで、白老小の解体費とかは入っておりません。きっと白老小もあの規模ですと解体費は1億円以上間違いなくかかると思っております。その内訳がわからないのでその4億幾らの説明ができません、申しわけありません。

それと、説明会中での財政的な話というのは、この統合は、社台、白老、緑丘小の統合は、財政的な問題で統合するのかという質問がほかの地区からも何点か出ておりますが、これはあくまでも財政的な問題ではなくて、子供の環境を考えたときに、こういうことが望ましいということと説明したということです。

以上です。

○委員長（小西秀延君） 吉田委員。

○委員（吉田和子君） 最後にします。1点は、今財政の問題は、父兄には子供たちの将来的ないろんな姿を考えて、学校のあり方を基本に考えてやりますという説明をしたということで、でも、議会と教育委員会は今回の財政の見直しの中で、学校の統廃合やるべしという宮脇先生の載っていますね、そうなってくるとやはり議会としては、どれだけかかって、それが町で持ち出しが可能なのかということか、そういった議論はやはりここでしていかなければならないのではというふうにちょっと思っていましたので、できれば数値になった表みたいなものがほしいのです。今回直した数字を見つけたのですけれども、2億7,720万円かかりますと言われたのですけれども、これはどういう形の工事費でかかるのかということと、それから、現在の各小学校でかかっている経費があります。維持管理とか全部。それがどのように変わって1,500万円か600万円違うのですとか、スクールバスが800万かかりますとか、それから、交付税は1校について500万円は減りますとかという話がありました。そういったところがぱっと言われた

ので、私は特別委員会でいただこうと思ったのです。保育所の関係もそうですけれども、指定管理したら幾ら安くなったとか。安くなったと言わないですね、かからなくなったとか。だから小学校もそういったことで数字的に表にさせていただければ大変ありがたいと思っています。

それともう1点は、このことによって、中学校は終わりました。小学校も今一番問題ある耐震化の関係ですが、白老小は27年度には統合になるかもしれないということになると、白老小も抜けます。それから、そういうことでは、この親との懇談で竹浦だけが耐震の話が出たと言っていました。やはり耐震化がきちんとされていないということも心配だったと思うのですが、今統合がもし白老の小学校の適正配置が、統合が終わった時点での耐震化率というのはどれぐらいになるのか押さえられているか。その点を伺いたいと思います。

○委員長（小西秀延君） 五十嵐教育課長。

○教育課長（五十嵐省蔵君） 最初に、ご質問というか要望というかありました。例えば改修費用の内訳とか、維持管理費、スクールバス等については先ほど大まかな概算しか言っていませんので、次回までにその辺は資料を整理してお渡しできるような形にしたいと思います。

また、最後の耐震化のほうですが、ことし萩小の屋体を改築しております。それが終わって、あと緑丘小、白老小が終わった場合、統合になった場合ということでいきますと、実際緑丘小、白老小を統合した場合、中学校については、まず白老中の校舎が残っております。中学校では白老中の校舎が1棟残っておりますので、中学校については4棟、全棟数が2校で4棟ありまして、耐震化済が3棟で、耐震性なしが白老小の3階建ての校舎1棟だけになりますので、校舎が75%です。それから、屋体については2校とも終わっておりますので100%ということで、体育館、屋体合わせますと耐震化率は83.3%になります。社台、白老、緑丘小を統合した場合、小学校の校舎につきましては全9棟になるのですが、耐震性あるのは7棟で、耐震性なしが2棟ということになります。緑丘小の耐震が終わりましたので。残るのは竹浦小学校の2階建ての校舎、それと萩野小学校の一部2階建て校舎があります。この一部については、300万円程度で、耐震性だけでいくとそのぐらいで終わるということですが、その2棟が残っておりますので、9棟で7棟ですので、耐震化率は77.7%になります。屋体については終わっておりますので、萩野小もことし改築なので、屋体については100%ということで、小学校でいくと統合した場合について84.6%の耐震化率になります。それでいきますと、残るのは要するに白老中の、今回元気臨時交付金の関係で、白老中の校舎については耐震化の実施設計は上げておりますが、工事のめどはまだ決まっておりますので、白老中の3階建て校舎と、竹浦小の2階建て校舎と、それと萩野小の2階建てのグラウンド側の一部ということになります。

以上です。

○委員長（小西秀延君） 暫時休憩いたします。

休憩 午前10時56分

再開 午前11時10分

○委員長（小西秀延君） それでは休憩を閉じて会議を再開いたします。

引き続き委員からの質疑を受けつけいたします。

山田副委員長。

○副委員長（山田和子君） 山田です。まず、計画案の中の説明状況で校名、校歌の考え方についていろいろ各学校区の方から、保護者、町内会さんの方々から質問があったと思うのですが、それに対して歴史的経過を踏まえてということは十分理解しているのですけれども、その説明だけでほとんど理解していただけた雰囲気なのではないでしょうか。まずそれが1点目と、竹浦小学校、虎杖小学校から、やはり耐震化の時期や竹浦の統合時期や、虎杖小の統合時期を質問されていますけれども、その辺はどのように回答されたのか、まずその2点お願いします。

○委員長（小西秀延君） 五十嵐教育課長。

○教育課長（五十嵐省蔵君） まず1点目の校名、校歌を白老小学校を使うということについては、白小、それから緑小から1人ずつ質問がありましたけれども、その歴史的な経緯等をお話して説明をしたら、それ以降はありませんでしたので、思ったよりと言ったらおかしいのですが、理解していただいたのかと思っております。また、虎杖小学校に出ている統合の時期、場所というのは、これは萩野、竹浦、虎杖のほうの統合の時期、場所という質問だったのですが、これについては計画案にもありますように、複式が複数出た場合ということでいくと、この計画書でいくと大体平成33年ということなるのですが、そのころにその状況を見て、再度協議をさせてほしいということをおっしゃっています。また、場所については、現実には全然未定ですということをおっしゃっています。

○委員長（小西秀延君） 山田副委員長。

○副委員長（山田和子君） 山田です。通学路のことについて質問なのですけれども、4キロ以内は歩けるということなのですが、自転車通学の検討と、あと社台、日の出地区から来る場合にポロトの踏み切りを通らないで、役場前の踏切を通るような通学路になっているとお伺いしたのですけれども、そちらの今後の検討の仕方はどのようにされるつもりでしょうか、お伺いします。

○委員長（小西秀延君） 五十嵐教育課長。

○教育課長（五十嵐省蔵君） 通学距離につきましては、望ましい学校という文科省の規則の中で4キロ程度というのがありますので、4キロメートル以内に入っていればある程度いいのかと考えております。自転車通学につきましては、萩野小学校につきましては2キロを超えると自転車通学を認めている状況にあります。これにつきましては、最後の通学路の、鉄道を横断する場所ですか、うちで言っている駅横の跨線橋と役場前の歩道橋という2カ所で設定しておりますが、説明会の中でもポロトの踏み切り使えないのかという話も出ておりましたので、これについては今後の条件として、今後の協議事項になると思います。

以上です。

○委員長（小西秀延君） 古俣教育長。

○教育長（古俣博之君） 通学路については、今回計画案なのでこういうふうにお示ししているのですけれども、本来は学校の学校長がつくって、そして教育委員会に報告するものなのです。そういうことからいけば、緑小に統合というふうになったときに、どういうふうな通学路を設定するかというのは十分学校の中での指導もありますから、そのことも含めて協議をして

もらわなければならない事項だと思っています。ですから、一応案としての投げかけは、今教育委員会はしておりますので、そういうものなのでご理解お願いいたします。

○委員長（小西秀延君） 山田副委員長。

○副委員長（山田和子君） 都会の小学校では、ロビーに魚が泳いでいる水槽があったり、札幌の小学校では息抜きができる場所があったりするわけです。今、白老で小学校で教育環境が悪いために今統合をするというのが最優先で、白小のほうを最優先しているわけですがけれども、やはりどこで教育を受けても平等な感じを町民が持つというのは大切なことだと思うのです。それで、児童数の将来推計を見ても、もうわずか10年もたたない間に、33年で535人という推計が出ていますけれども、これだったら全町で1校でいいのではないかとというぐらいの人数になっていますから、今白小の老朽化したこういう教育環境が著しく悪化しているから早急に緑小、社台小、白小を統合するのは今早急にやることには全然賛成なのですがけれども、今後全町的に見て1校にしていかなければいけないのではないかと思うのです。今、斎藤委員冒頭、各地区に小さい学校を残していくことを検討するというふうにおっしゃったのと真逆なことを申し上げてちょっと恐縮なのですが、まちづくりという観点からもすばらしい環境のところ、私の夢ですが、小学校と中学校が隣接している萩野に全部集めて学園都市といったら大げさですが、そういう地区を萩野小学校と白翔中学校につくっていくという構想を今から考えていくのは大事なことではないかと思うのですが、今突然ふったので返答はないかもしれませんが、全体的に見て、これからの白老町の教育のあり方という観点から、どういうふうにお考えかお聞きしたいと思います。

○委員長（小西秀延君） 古俣教育長。

○教育長（古俣博之君） 今、山田副委員長がおっしゃったように、確かに子供たちが1人の子供たちが持っている教育活動のスペースといいますか、だから社台小学校の子供たちの持っているスペースと、それから緑小の子供たちが持っているスペースというのは確かに違うし、それから教育的なつくり、学校の中の状況も違うだろうと思っています。そういう中で、確かにハード面での教育環境の整えも必要だというふうに思っております。そういうために今、当面のこととしてこの案の中での統合を進めていきたいというふうには思っているところなのですが、将来的な部分で、例えば中学校1校、小学校1校と、先ほどもありましたようなことにかかわってくるのですが、そういうふうにして統合していったときに、中学校であったら通学時間帯といいますか、スクールバスに例えば乗っている時間帯のことも考えれば、中学校だったら可能な部分というのはあろうかというふうには思います。それはあくまでも今、過程として。ただ、小学生が社台から萩野までの、その距離のバスに乗っている、特に低学年の距離数、そのところを考えていくとやはり十分考えてやらなければ1校にまとめるというふうなところが、虎杖からもそうだけでも、十分精査しなければならない問題ではないかなというふうには思っています。

○委員長（小西秀延君） 山田副委員長。

○副委員長（山田和子君） 私も小学校のときから既にスクールバスに乗ってしまって、通学することのいいか悪いかということは考えたのですが、バスの中での指導ということも

考えられるので、また、家まで迎えに行くわけではないから、大きな道路まで、家から出るし、バス停をある程度決めて、そこを歩くということはもちろん想定されることなのですけれども、そうすることによって、歩くということは可能ですし、時間的にバスが2台あれば社台から萩野、虎杖浜から萩野に向かう、時間を考えればおよそ20分、いろいろちょっと回っても30分以内に着くかということは考えたので、まだ全然具体的にどうこうではないのですけれども、こういうふうに人数が減ってくることを鑑みるとやはり町内1校1校で、しかもハード面でも環境設備を整えて、いい学校づくりというのを、まして小中一貫というか、ある程度教育理念も統一したもので、この白老の子供たちを育てていくということを考えていく時期ではないかというふうに思うんですけれどもいかがでしょうか。

○委員長（小西秀延君） 古俣教育長。

○教育長（古俣博之君） 本当に将来的に展望としてはそういうふうな案といたしますか、今山田副委員長からのご指摘いただいたようなところも考えていかなければならないかと思っています。数的な部分でいけば。ただ、今さきに申し上げたように、低学年の子供の体力面だとか、バスに乗っているときの状況の面を考えると、今今距離的な部分で、確かに今、虎杖浜から萩中までの間について30分ぐらいの時間なのですけれども、果たしてそのところがどうなのかというふうなことは精査しなければならないだろうと思っています。教育環境としては、今言ったように1つにあそこがあれば、本当に真向かい同士で小中一貫教育は可能性としてはできるだろうと思っています。

○委員長（小西秀延君） 斎藤委員。

○委員（斎藤征信君） 統合になった後の人数の問題なのですけれども、例えば国の基準が今40、先ほどから教育長が言うように国の基準がもっと下がっていけば、また別な展望が開けるというのは、まさにその通りで、だから40人学級だめなのだ和我々ももう本当に声を上げてきたのだけれども、それらが変わらなかったら、今の数で言ったら大体现状では30人切っている学級になっていますね。40人学級とはいいいながら子供の数からいったら30人近い学級でやっている。だからいいのだという指摘もあるのだけれども、ところがこれは合わさると、合わさった数で単純に計算すると30数人になるはずなのです。条件としてはよくないですね。教育長よくご存じのように、ヨーロッパなんかで本当に20人学級あたりが、これはもう本当に定着しているような話ですけれども、やはり子供に目が行き届くためには、そのぐらいの数にならなければならないはずなのです。それは、法的にも保証されるということが1番大事だという気はするのだけれども、まず一つは、この社台の声、社台の18人しかいない子供の数の中で、これは30数人の親が集まってきているわけですね。実際には、それだけ関心があって、私も社台をちょっと歩いたときに、学校どうなるのだろう、子供の声が聞こえなくなったら、いや寂しいと、それは感情論かもしれないけれども。やはりそういう中で少ないのはわかっているも少人数学級で何とかならないのかという声がここに、規模が小さくてもいいのではないかという声、やはり率直にあるわけですね。だから、そういうことのあらわれだろうと思うのだけれども。私はこの統合に余り乗り気ではないものだから。斜に構えて物を言いますけれども。どこまでの基準があれば、学校っていいのかという基準というのは必要なかもしれないけれども、

小さい学校があって初めてその学校の特色というのが出るのだらうと思うのです。教育委員会が学校運営していくときに、大規模があればそれでいいのだと、お互いに交流しているのだからいいのだということではなくて、小さい学校の中で白老の教育の特色がどう出ているのかという、そのほうが大事なのです。大きい学校になるとそれが埋没してしまうのです。だから、小さい学校は小さい学校なりに与えられた環境で育つのではなくて、自分たちで環境をつくりながらやっていくのが教育だらうと思うのです。だから、そういう面から白老の教育という面をもっと考えてほしいという気がするのです。国の基準でいっている、この規模の大きさをやればいいのだという、そういうことではやはり、いい白老の特色ある学校はできないという感じがしている。その中で、では財政と教育、盛んに財政はこの際関係ないと今までに言っているのだけれども、本当はこの文章をずっと読めば、やはり建てかえもできないし、金がなし、しょうがないということをはっきり言っているわけです。だから、いやそれでやはり学校教育というのは決められたらおかしいと思うし、それから緑小だって、今緑小だから、みんな行けると思うけれども、緑小ももうすぐ建てかえの時期が来るわけでしょう。あそこだって寒くてだめだとか、ボイラーが隅々まで行き渡らないだとか、いろんなことを今までも言われてきたわけだから。それを建てかえながらまた直していかなければならないのかもしれないけれども、だけれども白小が耐用年数が超えたのと同じように、緑小ももう間もなくその時期を迎えるはずなのです。その辺のことから考えると、その辺のことまで全部考えてきたのかどうなのかということ。1校にするか、2校にするか、たくさんの学校にするかは、これは選択の基準というのはいっぱいあるからどうでもいいのだけれども、経験上からいえば、1校というのは絶対だめです。学校そのものが衰退するのです。競争相手がいないから。だから中学校が二つでよかったと思うのです。だから、そういう意味ではいろんな選択肢はあるのだけれども、私1番気になるのは白老の教育の特色を發揮するのは、今ではないのかという感じですが。こういう建てかえや、こういう問題が起きたときに、だから白老の教育はどうするのが本当なのかということをもっと考えて、町民と話をしてほしいと、そう感じるのです。そのあたり、考え方なのですが。

○委員長（小西秀延君） 古俣教育長。

○教育長（古俣博之君） 学校の適正配置を考えるときには、ただ単に学校規模の状況のみで考えるということはまずないと思います。私たちもそういうふうなことで、やはり白老の教育環境というか、教育をでは今後も含めてどのような教育を進めていくべきなのかというふうなことから、そこに足元を持ってつくり出している計画ですから、そのことについては、今斎藤委員がおっしゃったように、白老の教育の特色づくりは、この統合があれば、なければというふうなことだけではなくて、やはりしっかりとした白老らしさを出せる教育状況というのは、特色づくりはしていかなければならないと思っています。ただ、大きなことで今の子供たちの状況を盛んにいわれているように、やはり1番私も現場にいて思っていたのは、子供たちのやはり人間関係づくりです。やはりそのことが生きる力としての自立性を見出していくときに、どのような環境の中でつくられていくのかというふうなあたりはやはり、これから将来を託す我々大人が十分考えていかなければならないことの一つだと思っています。大きなことだ

と思っております。そういう意味で、今回はこの統合したほうがよりそういう環境づくりがされるということでの押さえで案として出させていただいております。

以上です。

○委員長（小西秀延君） 斎藤委員。

○委員（斎藤征信君） そこまではわかります。もう一つだけ確かめておきたいのですが、古俣教育長小さい学校のデメリットとして子供たちの人間関係がなかなか育たないし、社会に出たときに時間がかかるということと言われたのですが、小さい学校から出たときに確かななじむのに若干の時間はかかる。それは違う環境に入るのだから、これはどんな場合でもそれになじむまでには時間がかかる。人それぞれの力に応じて長短はあるだろうと思うけれども。けれども、必ずやなじんでいるのです。森野の小さい学校から中学校へ行って、生徒会長をやったり、表に立ってどんどんやれた子も何人もいます。よそのまちでもそれは全部聞いているのです。小さな複式のところから出てきて、大きい学校へ行って頑張っているのだと。その最後の力というのは、小さいところで基礎的な力、先生に十分に与えてもらったものが基礎の支えになっているのだと、こう言うのです。だから、必ずやそれは乗り越えていけるだろう。これは致命的なものではないはずなのです。だから、それは人の生き立ちによって、環境によってそれぞれの壁にぶつかったり何かするのは、これは当たり前の話で、そういうことを経験しながらでも、小さいところから大きいところへ向かっていくという、そういう環境があっても構わないわけです。だから、そのあたり、本当に古俣教育長、小さいところから出た子供が本当に苦労するのかなどという点では、私は疑問に思うのですけれども。そういう場合もあるかもしれません。

○委員長（小西秀延君） 古俣教育長。

○教育長（古俣博之君） それは、きっと斎藤委員のおっしゃるとおりだと思うのです。やはり個人差というか、それをどういうふうにして捉えて、どういうふうにして育っていくか。さまざまなそこには、その子の持っている教育環境ベースというのが作用する中で、小さいところから出たから、では社会自立ができないかというふうなことは決してないだろうと思います。ただ、今のこの社会状況の中で、多様な個性といかに早くかかわり合いをつくっていくかというところは非常に大事な時代になってきているのではないかと。そういう捉えの中での一つの、こういうふうな適正配置の押さえになっております。私も社台小学校から19人のクラスで卒業をして白中に行ったときには、私のときは5クラスありましたから、そこで19人ばらばらになったときに一人一人の社台から来た仲間の数は少ないですから、その中でかなり白老小学校から来た皆さんとは、やはりやりあいもしました。ただ、そのところは私のような性格の者と、またそこでへこんでしまう者との、そういうふうなベースはやはり違うと思います。そういう中で、斎藤委員がおっしゃることは十分私も押さえながらも、今言ったような大きく考えたときに、そういう状況は必要ではないかと。今の状況としては。そういうふうなことの提案です。

○委員長（小西秀延君） 前田委員。

○委員（前田博之君） 2、3点、一つずつ聞いていきます。今、斎藤委員もいろいろお話されました。当然、古俣教育長もお話されていますし、それはそれで十分理解されていますけれ

ども、現実に白老町として4月に中学校統合しましたね。そういう例がありますね。そういう形からいくと、まだ4カ月しかたっていないけれども、今古侯教育長、斉藤委員がお話をされたような学力差、生活指導、そういう部分について、今現実に見て、どういう状況に置かれて課題とか、メリット、デメリットがあったのかと、その辺を、まだ4カ月ぐらいですけれども、ちょっと分析した中で現実どうなのかと、そういうこと踏まえて、多分この社台の統合も入ってきたのかと思うのですけれども、まずそれ一つと、まだ関連がありますので、全国の学力テストをやって3回か4回たちますね。これは十分な、いい資料が出ていると思いますけれども、そのときに社台小学校は今複式になっています。もう何年も前から。それに対する学力テストの結果が、実際に大きい学校との児童というか、方々との学力の差とか、あそこには児童生徒の生活態度の形もありますけど、そういう部分から見たら、どのような言葉の使い方が難しいけれども、分析というか、どういう違いがあるのかという部分の2点をちょっと答弁願いたいと思うのですけれどもいかがでしょうか。具体的にお話してください。余りおさめないで現実的なことを言ってほしいと思います。

○委員長（小西秀延君） 古侯教育長。

○教育長（古侯博之君） 中学校を3校統合して4カ月たって、その状況については、今改めて白翔のほうから状況は把握するようにしております。ただ、今までの教育委員の学校訪問と、それから私自身が見ている状況の中でのお話をしたいと思います。通学関係につきましては、私も実際に虎杖浜からスクールバスに乗って子供たちとお話をしましたが、子供たちは通学の面については不便は感じておりません。親のほうからも、かえって部活等の関係でいえば、しっかりとスクールバスによって時間管理ができていし、今までのような迎えに行くだとか、そういうふうなこともないのでいいというふうなことに聞いております。それから、学習面については、4月になったばかりでの今回の全国学力学習調査のところで白中と比べることは単純には、今1回のところではできませんけれども、ただ、学力的には確かに点数そのものでいえば白中のほうが高いです。今の段階では。ただ、手厚く教員の配置が今できておるので、その学習サポートを含めて切磋琢磨はお互いにできていくように思っています。ですから、今回の夏に中学生の地域塾、ステップアップ地域塾というふうな名称で行うのですけれども、お互いにこの休み中にボランティアを含めてやるようにしております。そういう面でも、一つ大きいかと。それから、部活の面で中体連の状況を見ますと、例えば一つ例を挙げていいますと、野球なんかでも人数的には対等にまくなりました。それから、お互いに中体連中に2試合対戦していますけれども、遜色ない点数差、1点差ぐらいで白中が勝っていますけれども、そういう状況で部活も進んでおります。それから、生徒指導の面では特に大きな問題を報告事項としてはもらっておりません。学校に来て教室に入れない子供は、今白翔では2人、白中はもっと、不登校も含めて多いのですけれども、そういう状況になっております。それから2点目の、全国学力学習調査の社台小との関係ですけれども、確かに点数そのものからいえば、社台小学校の子供は高いです。それはサンプルとして、6年生が1人なのです。そういうふうな、受ける子供が、そういうふうなことからいけばやはり比べるサンプルでどうしても平均点で比べますから、ですからなかなかそれは比べられるものではないというふうに思っています。

○委員長（小西秀延君） 前田委員。

○委員（前田博之君） 私は今言った白翔中学校の3校集まって4カ月たった比較を、今白中との比較だったのですけれども、3校の今学力が仮に高いとか低くてもその対応が実際どういうような形で、4カ月たったのだけれども課題とか何か出てきているのか、そういうことを聞きたい。それに対して、どのような解決をしているのか。だから、それは白小と緑小、年齢は違うけれども、なったときにそういうことが一つの参考にもなるかと思うので聞いたのです。

○委員長（小西秀延君） 古俣教育長。

○教育長（古俣博之君） 3校統合になる前までは、正直に言いますと、竹中が3校の中では平均点としては高くありました。次が萩中、それから次が虎杖中というふうな、平均点のみからいけば。今回、3校が一緒になる中で、1年前から教育課程は同じく、統合になる前から学習指導要領の改正もありましたので同じくやっておりましたので、スタートとしては全部同じくできております。それから、今学習サポーターというふうなことでつけて、それぞれの学校につけておりますので、そういうふうなことからもしっかりとした学力保障はできていっております。サポーターについては、白中は局のほうのサポーター事業というか、指導改善工夫で配置しているのですけれども、白翔にはそれと、それから町のやつも含めて手厚く、数的に対応させてもらっています。

以上です。

○委員長（小西秀延君） 前田委員。

○委員（前田博之君） 今、いい話だったのですけれども、斎藤委員も統合するとそういう教育の面で云々といったけれども、そういう心配もありますけど、統合を前提にすると、今古俣教育長もお話があったように、これから多分40人、35人学級だけれども、人数によっては2学級になれば今言ったように少なくなりますけれども、ぎりぎりになる場合もあるのです。そのときこそ学力サポーターを町費で、財源的には別です。あくまでもサポーターを町費で賄って、そういう面については心配しなくていいと、そういうことをやはり訴えていくべきだし、教育委員会でも多分考えていると思いますけれども、そういうことは将来統合に向けても1項目ぐらいきちんとうたったほうがいいと思うのです。そういうことは。そうすると、斎藤委員がお話しているような部分も保護者も安心するかと思うので、せっかく今やって中学校がそういうふうに町費を使っていますから、それを踏まえた中でやはりはっきりそういうことを、今の学級数を見たら人数がわかりますから、私は見たけれども忘れたけれども、何クラスか40人ぎりぎりなところがあるのです。私はぜひそういうところはつけるべきだと思うのですけれども、そういうことをやはりこれからこの統合に向けた中で私はきちんと入れておいたほうがいいのかと思うのですけれども、その点と、一つだけ、先ほど斎藤委員がお話をしたのですけれども、肝心なところなのですけれども、今約3億をかけて改築するのですけれども、前も議論されているのですけれども、これはもう緑小40年ぐらいになって、そろそろ対応年数になってきて、あそこは地盤が悪くて校舎が非常に、多分何年かしたら建てるという話になる可能性があるのです。過去にもこの統合のときにあったのです。そうすると、今3億円かけて改築しますというけれども、これはそれに耐えられるような形になるのか、これぐらいかけてまた何年後に地

盤が悪くて学校を建てるとか、何とかという話になる可能性があるけれども、それらの部分については教育委員会で整理されているかどうかということだけを伺っておきます。それと、1点だけ聞いておくのですけれども、直接今の白老地区以外の統合については理解しました。ただ、保育園の民営化と統合の話がありますけれども、私はもし保育園の統合も考えていればやはり同時並行に、地域性の問題があるから考えていかなければいけないと思うのだけれども、その辺はどのような状況になっているのか、その2点だけ伺っておきます。

○委員長（小西秀延君） 古俣教育長。

○教育長（古俣博之君） 学習面でのサポートは、今の町費で緑小に1名入れております。それから、今年度から教育支援センター、あそこの不登校対応で持っている指導員2人いるのですけれども、この間新聞でも報道がありましたけれども、放課後指導というふうなことで週に1回ですけれども白小に入れて、そのほかに今各曜日によって午後から緑小だとか、それから萩小だとかにも入れていく状況はつくっていくように計画しております。そういうところで、そのほかに統合したときに今回白翔もそうだったのですけれども、加配措置をつけてもらうようなことで強く強く要望して加配を2名つけてもらっておりますので、そういうふうなことも配慮していかなければならないだろうと思っています。それから、あと保育園の関係なのですけれども、このことについては、これまでの計画の中でもいろいろ議会でも議論いただいて教育委員会のところで押さえてはいるのですけれども、子ども、子育て関連3法が今どういうふうな流れになるのか、その辺のところの状況を見ていかなければ認定保育園との小規模の関係もあるので、ちょっともう少し見ていかなければならないのではないかというふうに思っています。ただ、この間登別ですか、民営化というふうなことで打ち出してきていますので、あの状況は今確かめて、どういうふうに進めていくのか、そういうふうなことをとっています。

以上です。

○委員長（小西秀延君） 五十嵐教育課長。

○教育課長（五十嵐省蔵君） 建物の老朽化というか耐震の話が出ておりましたが、緑丘小学校1期工事がグラウンド側の校舎になるのですが、それが約40年ほど経過しております。今回、耐震化を図るための実施設計の前の耐震診断等を行っておりますが、大きな建物の損傷というか、老朽箇所はないということで、耐震壁等については今回の耐震化等の工事の中で行うということで、大きなものはないというのを聞いております。

以上です。

○委員長（小西秀延君） 前田委員。

○委員（前田博之君） 耐震化はわかっているのだけれども、それを抜きにした老朽化、本体の老朽、耐震はわかります。けれど、本体の現状の延長では耐震化はするのだけれども、本体の老朽化対策については、今、今回3億をかけて内装とかいろいろやるのだけれども、基礎工事とかそういうのも多分含んでいないと思うのだけれども、その辺は大丈夫なのですかということです。仮に耐用年数70年なら70年あるのだけれども、現実にはもう70年前に結構よそでも校舎を建てかえていますね。だから、そういう部分に耐えられていくようになるのですかということです。

○委員長（小西秀延君） 五十嵐教育課長。

○教育課長（五十嵐省蔵君） 耐震診断のときにも調査をかけておりますが、躯体の大きなものはないと確認しております。建物は一般的には、コンクリートでいくと60年、70年もつということが想定されますので、1番古い建物でも30年程度は今後また改修、屋根等の改修をしていけば、まだ30年程度は使えるという状況になるということになります。

○委員長（小西秀延君） ほかございますか。

吉田委員。

○委員（吉田和子君） 斎藤委員に反発するわけではないのですが、これは議員との議論もちょっと必要かと思って聞いていたのですが、私は理想としてはやはり各地域に1校というのは、これは崩してほしくないはずとずっと思っていました。だけど、やはりいろんな状況の中で、本当に何をきちんと見なければいけないのかと思ったのです。地域に学校がなくなったら衰退するとか、それはもしかしたらないとはいえないと思うのです。ただ、やはり子供たちにとってどうなのかということだったと思うのです。私は、今回この結論を出したのは、私は本当に子供たちがどういう姿で勉強していくことが今1番必要なのかということを考えてやったというふうに、そこを私は信じたいというふうに思っています。だから、社台が、前も何回も相談を受けたことがあります。複式で、吉田さんこのままで子供の学力、それから将来的なことで心配だというのは何回も受けていましたけれども、やはり地域の特性を生かしたやり方をしているので、不足分はきちんと補っているはずだというのはいつまでかかっていたのですけれども、やはりそういう心配というのは私もどうしても残ります。一緒になったときに。ただ、子供というのは、私は信じたいというところが大手にあるのですけれども、子供というのはたくましいと思うのです。新しい学校ができたときに、私は新しい学校の歴史は子供たちがきちんとつくっていけると思います。それを手助けしていくのがもちろん先生方ですけれども、子供たちの力を、それをバックアップできるような体制づくりをしっかりとしてもらいたい。新しい学校をみんな1つの白老小学校として、白老の学校としてつくっていくのだということをきちんと尽くしたものをつくってもらいたいというふうに思っていることと、それから前田委員が心配した学力差が、統合したことでまた出てくる可能性があると思います。そういったときのサポーター制の話が出ていましたので、私も本当にその中で一人一人小人数だから見えている、大きくなったことで見えない部分が出てくると思うのです。それでそのサポーターとかいろんな人が入ってくると思いますので、そういったことについていけない子供、それから急に集団になったことで登校拒否を起しそうな子供が出てくる可能性があると思うのです。環境の変化によって。ついていけない子供がきっと出てくると思うのです。そういう子供たちへのきちんとした配慮、それから手を打つということをしてもらいたいと、今後出てくると思いますので、そういうことをしていかないとやはり小さい学校の目が行き届かないのではないのかというふうになってしまうと思いますので、特に社台から来る子供たちのお母さん方にしても、そういう心配というのはすごくつきまとっているのだと思うのです。だから、そういったところの配慮が、先ほど前田委員が言ったように、そういうサポーターをつけてやっていくのだということも1行入れたほうが良いというお話しをしていましたけれども、やはりお父さんお母さ

んが安心、それ以前に子供たち、お父さんお母さんが安心すると子供も割りと安心するのですが、やはり子供がどうあるべきかということを中心に考えられていると思いますので、そのことをしっかり細かく配慮をしながら進めていっていただきたいというふうに思います。

○委員長（小西秀延君） 古俣教育長。

○教育長（古俣博之君） 今、ご指摘いただいた部分につきましては、十分私どもとしても具体的な部分で保護者の皆さん、それから地域の皆さんにもお示しをしながらご理解をいただい
ていこうと思っております。確かに、小さい規模のところの子供に対するその目線の多さと、
大規模校にというか、人数が多くなるとその目線の数は減るということは事実ですから、その
部分をどうやって人的に補っていくかというふうな方法は最大限、先ほども言ったようなこと
で進めていきたいと思っております。それからもう一つ、先ほど前田委員からあった中で、白翔
の中でこんなことが一ついい結果として出ているのではないかと思ったことは一つ足したいと
思うのですけれども、先日胆振の少年の主張大会がありました。新聞にも出ておりましたけれ
ども、あの子は竹浦の中学校から来ている子供なのですけれども、今回述べた、私が私たちが
母校づくりを自らしていくというふうな子供たちの思いがやはり一つつくられてきているの
ではないかというふうなことも、大きな意味があるのではないかというふうに思っております。

以上です。

○委員長（小西秀延君） 前田委員。

○委員（前田博之君） 委員会できちんと整理をしておかないと、委員会報告を出すときに聞
いていないのかといわれて困りますので、きちんと言っておかないと委員会の報告を出すとき
に困りますので確認しておきます。社台小学校なのですけれども、今いろいろ議論ありまして、
これは複式学級で地域で残してほしいと言う人もいますし、私は地域に1枚必要だと思
います。地域がどうしても複式学級で子供が少なくなって統合してくださいというまでは、
私は必要かと思うのですけれども、この流れから見れば教育長として、一応27年と言っていま
すけれども、これはだらだらいくわけにいかないと思うのです。ある程度の整理の仕方、とい
うことは、統合するしないとか、その辺の状況を教育長はどのように認識して、この話を進め
ているのか。地域が、ある程度の数で反対されればやめるのか、あるいはそれでも押し切っ
てしまうのか。その辺、一応27年と公に数字になっていますけれども、私はやはり地域の声を十
分に尊重すべきだと、私は思うのです。その学力とか云々ということもありますけども。それ
は、親が、地域がまた考えればいいことですし。その辺の教育長としての考え、社台小学校の
部分についてのお考えだけをお聞きしておきます。

○委員長（小西秀延君） 古俣教育長。

○教育長（古俣博之君） 十分、保護者、地域の皆さんのご意見、ご要望については、十分聞
きたいと思っております。ただ、先ほどから申し上げておりますように、学習環境教育全般的な
環境整備からいきまして、今、校舎の改修との関係からいけば最短でやっていきたいと思っ
ておりますので、平成27年の4月統合というふうなことは、それに向けて準備を進めていきたく
と思っておりますし、ご理解をいただきたいと思っております。

以上です。

○委員長（小西秀延君） それでは、私が聞きたかったところが山田副委員長が大分聞いてくれたのですが、最後に一つだけ、地域説明会の状況の中で統合に反対という声は余り聞かれなかったというふうに先ほどご説明を受けました。それより条件についてということで、通学路、また学校の学校名、そして校歌名というところが主だったというふうに聞きましたが、それ以外で地域の住民の声が大きかったと捉えているところはございますか。

古俣教育長。

○教育長（古俣博之君） 全て細かくというふうなことで先ほど出したわけではございませんけれども、ここに挙げられていたことの中で大きな観点で捉えれば、先ほど私が最初に申し上げた通学方法だとか、通学路の安全性の課題だとか、子供たちが要するに規模が大きくなったときの教育環境をきちんと見る目を大事にするだとか、そういう声のほうが大きかったと判断はしております。ただ、後ほどまたご説明をしたいと思えますけれども、今回アンケート調査を保護者の中でしております。そういう中で、またどういふふうな声が上がってくるかは今、今後一応各学校で終わっておりますので集計を見て、またご報告をしたいと思っております。

以上です。

○委員長（小西秀延君） それでは、続けて3番、今後のスケジュールのご説明をお願いいたします。

五十嵐教育課長。

○教育課長（五十嵐省蔵君） お配りした資料の裏面になります。3. 今後のスケジュールということであります。このスケジュールにつきましては、統合時期を27年4月とした場合ということと、それと統合時期を考えた場合のあくまでも教育委員会としての案ということで理解していただきたいと思えます。ことしなのですが、6月10日各小学校の説明会を終えまして、6月、7月については各3小学校で三役会、役員会、運営委員会等で協議をしております。また、7月中旬につきましては、3小学校で保護者へのアンケートを実施しており、現在まだ集約中であります。7月25日現在でいきますと、社台小につきましては22世帯中14世帯ということで63%、白老小学校につきましては131世帯中73世帯ということで56%、緑丘小学校については188世帯中62世帯ということに28%が出ておりますが、今現在集約中であります。これにつきましては、7月、8月くらいの中旬くらいまでにまとめたいと考えております。それから、9月ぐらになりますと、PTAの協議、それから場合によって教育委員会、要望があれば教育委員会のほうで行って説明をしたいと考えております。11月、12月の各学校からの応諾書をいただくということになると、10月から11月にかけて各学校で臨時のPTA総会を開催して判断するということになると思えます。あわせて11月、12月について、26年度の臨時事業の予算要求が役所のほうでありますので、その要求をして、26年については年明けてから応諾書をいただいたということであれば、統合準備委員会の設立をして準備を進めていきたいと考えております。それから、4月については、それから3小学校の交流等の1年なのですが、交流を開始するということと、あと、現緑丘小学校の校舎改修をするということになります。計画案でいきますと、27年の2月に緑丘小学校と社台小学校の閉校式を行うということと、それで4月に新しい白老小学校の開校というスケジュールと、教育委員会のほうとしては現時点では考えて

おります。

以上です。

○委員長（小西秀延君） それでは、今後のスケジュールのご質問を承ります。

それでは、教育委員会からのご説明、ご質問はこれで終わりにしたいと思います。ご苦勞様でございました。

暫時休憩します。

休 憩 午後 12時05分

再 開 午後 12時10分

○委員長（小西秀延君） 休憩を閉じて会議を再開いたします。

先ほど、質疑の中で、吉田委員より経費関係に関する資料請求の要望がございました。その資料について、資料を請求するとしてよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小西秀延君） それでは、こちらの経費関係の書類を町側に資料請求させていただきます。

もう1点、今後の当委員会の進め方でございますが、先ほどの今後のスケジュールを見させていただいておりますが、大変ちょっと委員会の進め方について難しい問題が出てきておると思います。PTAが意見を集約するのが、10月から11月ということになってございます。ただ、委員会を進めていく中で、その後に意見集約を聞くとなると12月定例のときに所管事務調査の報告という形になろうかと思いますが、そのときにはほとんど、もう応諾書も提出されておまして、予算要求も始まっている段階になるという形になります。9月に、その大まかなことが進む前にやろうとも考えますと、9月の定例会に所管事務報告となりますが、その段階ではまだPTAの考え方はまとまっていないのかと、難しい状況になろうかと思っております。その辺を踏まえて、どのような進め方をしたらいいか、委員会の皆様からご意見を賜りたいと思っております。もう一つつけ加えていただきますと、委員会所管事務調査報告を上げるのに、ご質問の中でも委員の皆様の中で意見が大分違うところもございます。そこも、自由討議の場を設けたいと思っておりますので、その辺の配慮もお願いしたいと思います。ご意見ございますか。

山田副委員長。

○副委員長（山田和子君） 9月の定例会で一度中間報告して、12月の定例会でまとめるという方法が取れるのでしたら、そういう感じがいいと思うのですが、いかがでしょうか。

○委員長（小西秀延君） 中間報告、9月の定例会でということでございますが、ほかにご意見お持ちの方いらっしゃいますか。今、局長とちょっと相談をさせていただきましたが、自由討議、いろいろ委員会の皆さんの中でも意見の相違がございます。自由討議は一度必要だろうということでございます。8月9日財政の特別委員会を予定しておりましたが、この日はちょっと資料の関係で開催が難しいです。であれば、そこに一度、委員会なりの自由討議を入れて、また8月19日過ぎ、学校の休み明けくらいにはアンケート等もまとまるということでございますので、そこでアンケート等の状況をお聞きかせ願うと。9月に、その2回の委員会、合計3

ことは、答弁のほうに出てきていますので、かなり重たいものがあると、いつも軽いと言っているわけではないのです。重たいものがあるということで。全員に説明あったのが、今度は委員会として所管を持って、委員会として持っていくわけですから、やはりきちんとした9月なり、10月に報告するにしても、やはり基盤となるものがある程度でき上がった、でき上がったというのは委員会としてその意見を申し上げて、それが後押しされるというか、そういったものがきちんとないだめなのかと思ったので、アンケート調査が一つの大きな基盤になるのかとちょっと思っていたのと、それからやはりPTAとのかかわりが私もちょっと今悩んでいたのだけれども、PTAの意見を聞いてしまうとまた議会がそれでまた考えが変わってしまうのかと思ったり。議会は議会として今やり取りをして、教育委員会とやり取りをして、その教育委員会とやり取りをした中で議会で協議をして結論を出したということでもいいのかと。アンケート調査は一つの町民の声としてのあるのだけれども。でも、このアンケート調査にはPTAの役員もみんな入っているはずなのです。その地域の。だから、それを一つの基盤としていいのかとちょっと今、自分の中で言って、自分で中で解釈しながらいたのですけれども、だからそれでまとめて、やはりそのことがきちんと、他の議員さんたちにもきちんと理解してもらえようような報告になるような形ではないと、何か中間報告というよりももう最終報告のような考えでいかないだめなのだろうと思うんです。12月でもうすぐ出てしまうということは。だから、やはりそういうものをきちんとやって、ほかの議員さん方にも、先ほど前田委員がほかの議員から聞かれても答えられるようにとということ聞いていましたけれども、やはりそういう報告するというので、最初に全員にそういう説明されていますので、委員会としての報告がきちんとほかの委員さん方にも納得してもらえようような形で報告をすべきだというふうに思っています。できれば9月で、できなければ、先ほど言ったように通年議会なので予算編成に入る前にきちんと説明をしてもらう、出すということで。

○委員長（小西秀延君） 吉田委員からご意見をいただきました。私も委員会で出す以上は、これは委員会で上げますが、委員会の報告を経た後は皆さんのご承諾もいただきますので、ある意味議会の意見というふうに捉えられると思います。それにはやはり、アンケートの取りまとめは7月から8月、8月19日以降であればそれも発表できるということでございますので、まとめを聞いた上、PTAの方も、日程的なものもございしますが、PTAの方からもご意見を、答えがまだまとまっていないかもしれませんが、聞いたほうがよろしいかと思っています。アンケート調査と、そのPTAとのお話し合い、懇談を経て、また、その後に当委員会の自由討議、自由討議を2回ぐらい詰めたほうがいいのかという気はしています。スケジュール的に大変混みあってきますが、特別委員会もございしますので、重たい懸案ですので、それぐらいで進めたいと思っていますが、いかがでしょうか。

斎藤委員。

○委員（斎藤征信君） PTAとの話というのは、大事なように見えるけど、総会間近になってPTAがだんだん固まってきたときに意見交換しても、やはりそのPTAの総意から離れられなくなってしまうわけでしょう。自由なあれっていうのは聞けないわけでしょう。もし、PTAの自由な賛成も反対も自由な声を聞こうとすれば、各学校のPTAと話をしなければなら

ないという。集まってもらって、白小も緑小も社台もそれぞれのところからPTAの声というのは、聞いて我々が判断する材料を持つということになると思うのです。だとすれば、これはかなり日程的に難しいかという感じもするし、技術的にも難しいという。だとすれば、先ほども話が出たけれども、アンケートをもとにして、アンケートの結果の分析するとか何とかという形で、PTAの意向を参酌するという形になるのかと。ただPTAのところへ出て行って、話を聞きましたから、それがPTAの意向ですというふうになるのかどうなのかというのはちょっと私も今分からないでいるのですけれども。

○委員長（小西秀延君） 意向が決定されるのは、各PTAやはり総会で意思決定という形、臨時総会でなると思うのですが、相手もありますので、アンケートをやる時期、アンケートの結果を聞く時期に、PTA各学校全員来られるとは限らないと思います。相手もございますので。ただ、各学校のPTAの代表者のご意見を聞ければ聞いたほうがいいのかと。いや、それはやりませんというのであれば、アンケートの結果だけでもよろしいのですけれども、聞く努力はしてもいいかと思っていますが、いかがでしょうか。

前田委員。

○委員（前田博之君） 今、8月の中旬に自由討議すると言っているでしょう。このときに、このアンケートのしている内容、アンケート用紙いただいて、どういうアンケートをしているかちょっとここで検討してみたいと思うのです。それによって本当に、その質問事項が我々が意識して反映されるような項目になっているかどうかということを経査して、そのことでこれで十分ならPTAの各保護者の考え方が反映されるということであれば、今言ったようにとりまとめを整理して参考にすればいいし、これではちょっと不安だと、アンケートですからどこまで信用できるか極端な言い方するとありますから、その前にはやはり議会、各地域のPTAの代表の方に聞いたらいいいのではないかと私は反対してもいいと思うのです。そして、正式であれば、公でやるのであれば、社台なら社台の小学校に行って移動委員会みたいな形でPTAの人に話を聞くと。そのほうが来いというのではなくて、みんな3者入ると意見が違いますから、地域性あるから。社台は社台行く、緑小は緑小行って移動委員会という形の中でやったほうが委員会も活動としているという形で見られるのかと、こう思います。

○委員長（小西秀延君） 吉田委員。

○委員（吉田和子君） 前に中学校の統廃合するとき、まだ何年と決まる前に、かかわるということは何年後になるかわからないから、中学校の統廃合なのだけ小学校、あのとき幼稚園、保育所も来たのかな、役員の方たちが。それで意見聞いたのです。そういうのを考えたら、今回アンケートも小学校だけですね。小学校だけだから、これから27年といたら、これから後2学年は新しく入ってくるのですね。ということは、今の5、6歳の幼稚園、保育所の子供たちがかかわるのですね。そういうところではなくて、もう今現在のいる人たちだけで統廃合しますという教育委員会の考えなのかと違ってずっと見ていたのですけれども、だからそのPTAから聞くことと、それから各幼稚園、保育所の役員の会長、副会長とかいると思うのですけれども、そこまで広げる必要があるかどうか今自分で自問自答しながらいたのですけれども。だから、そういう面で考えていく必要はないかどうかということと、それからやはり、先ほど

もおっしゃったとおり地域ごとにきちんとお伺いをすると、そうすると私たちも自信を持って、こう何かまとめ集約ができそうな気がするのです。そういうことが必要ではないかというふうに思います。

○委員長（小西秀延君） 保育園等も当事者になるというのは吉田委員のご意見もごもっともかと。ただ、前田委員からも出ました各学校、そして各幼稚園、保育園となりますと、9月までのタイムリミットでは各1校1校となるとかなり厳しいスケジュール、ちょっと不可能に近いかと。

吉田委員。

○委員（吉田和子君） 社台はありませんね。白小と緑小ですので、PTAとの懇談をするときに、その役員の方も入ってもらっていい。そうしたら2回、3回で済むのですね。保育所だけ別にやるという必要はないような気がします。今のPTAの考え方も聞きながら、保育所のお母さん方の考え方も、もし必要であれば一緒に聞けるのではないかと、別にする必要はないというふうに思います。

○委員長（小西秀延君） 前田委員。

○委員（前田博之君） 今、9日に委員会やると、そのときにもっと具体的にやり直したほうがいいのではないですか。合わせて。もう時間もないし。

○委員長（小西秀延君） では、まとめさせていただきますが、9日には一度自由討議をやるということで進めさせていただきます。その後はまたそのときにスケジュールを、また状況も変わるかもしれませんので、皆さんとお話し合いをしたい。今1点、前田委員から資料、アンケートの内容を確認してほしいというご意見がありましたが、それも一応資料請求等になるかと思しますので、必要であれば取りたいと思いますが、皆様よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小西秀延君） アンケートのほうも、その内容をいただこうと思います。では、そのように進めさせていただきますが、よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎閉会の宣告

○委員長（小西秀延君） それでは、以上をもちまして総務文教常任委員会を閉会いたします。

（午前10時59分）